

文脈における同格構造

松尾文子

I. 同格構造概観

1. 同格とは

同格構造とは二つ以上の単位——主に名詞句¹⁾——の間の文法的関係である。本論では便宜上一つめの単位を U_1 、二つめの単位を U_2 とする。

統語的には、 U_1 と U_2 は文の統語構造を変えずに交換し、容認可能な文を作ることができなければならない。ただし、 U_1 と U_2 は同一の文法範疇でなくてもよい。

意味的には、 U_1 と U_2 は概念上等価で単一の指示物を持たなければならない²⁾。Anna, my best friend,³⁾ was her last night. (Quirk et al. 1985 : 1301) のように U_1 と U_2 が同一指示の場合もあれば、A neighbour, Fred Brick, is on the telephone. (Ibid.) のように片方の指示物が他方の指示物に含まれる場合もある。

同格構造には、制限的な *Mr Campbell the lawyer* was here last night. (Ibid. : 1304) と、非制限的な *Mr Campbell, a lawyer*, was here last night. (Ibid.) の二種類があるが、本論では後者のみを扱う。非制限的な同格は別個の情報単位を持ち、 U_1 は 'defined expression' U_2 は 'defining role' を果たす 'the definer'⁴⁾ である。

2. 意味尺度と問題点

2.1 分類

Quirk *et al.* は同格を次のように意味分類している。

(A i) Appellation 名称： U_2 が U_1 を名付ける。

the company commander, Captain Madison

(A ii) Identification 同定： U_2 が U_1 の指示物を指定。

a company commander, Captain Madison

(A iii) Designation 称号：| を逆にしたもの。

Captain Madison the company commander

(A iv) Reformulation 換言： U_1 の意味内容を U_2 で言い換える。

sound units of language, technically phonemes

(B) Attribution 限定：等価ということより叙述に重点。

Captain Madison, a company commander

(C i) Exemplification 例示： U_2 は U_1 で表されるより一般的な項目の例を示す。

several cities, for example Rome and Athens

(C ii) Particularization 特別指定： U_1 に U_2 が含まれ、特別指定を示す語句 (particularly, especially など) が必要。

the animals, particularly the monkeys

Meyer (1992) はおおむね Quirk *et al.* と同じであるが、designaton と attribution を一つにして characterization に分類している。

2.2 持定性

U_1 と U_2 の情報の持定性に関しては次のようになる。 U_1 より U_2 の方が特定のであるのは、名称、同定、例示、特別指定。 U_1 が U_2 より特定のであるのは、称号、限定。持定性が等しいのは換言である。

2.3 同一指示性

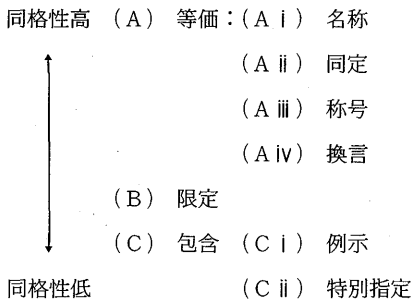
同一指示性とは U_1 と U_2 に指示されるものが同一であるということである。Quirk *et al.* と Meyer (1992) の説を見る。前者を [Q], 後者を

[M]とする。

- (A i) 名称：[Q] 同一指示 [Q] 同一指示あるいは限定的⁵⁾。
- (A ii) 同定：[Q] 同一指示でない [M] 同一指示あるいは後方照応的⁶⁾。
- (A iii) 称号：[Q] 同一指示 [M] 限定と合わせて characterization に分類。この中で that is to say の挿入及び関係詞節で書き換えが可能なものは同一指示，関係詞節での書き換えのみが可能なものは限定的としている。
- (A iv) 換言：[Q] 記述なし [M] 言語知識に基づく場合は同義的，現実世界の知識に基づく場合，自己訂正の場合は同一指示。
- (B) 限定：[Q] 同一指示でない [M] 称号の項を参照。
- (C) 例示，特別指定：[Q] 同一指示でない [M] 下位語あるいは部分／全体関係。

2.4 同格性

同格性に関して Quirk *et al.* (1308) は次のように記している。



Meyer (1992 : 90) はこれに Cruse (1986 : 87) の言う適合関係 ‘congruence relations’⁷⁾を適用している。‘identity’ (同一) は「クラスAク

ラス B が同じ項目を持つ」, 'inclusion' (内包) は「クラス B が全てクラス A に含まれる」。Meyey の後方照応指示は同一指示と似ているが, U_2 には referring value がないので U_1 と U_2 の間に真の同一指示性がないものである。下表で右欄にあるのは Quirk *et al.* の分類を当てはめたものである。

		Quirk <i>et al.</i>
↑ 同格性高 ↓ 同格性低	適合関係 'identity'	
	同一指示	A i, A ii, A iii, A iv
	同義語	A iv
	適合関係 'semi-identity'	
	後方照応指示	A ii
	適合関係 'inclusion'	
	限定	A i, B
	下位語	C ii
	部分/全体関係	C i, C ii

2.5 問題点

前述したように, Quirk *et al.* の称号と限定は Meyer (1992) では characterization —— U_2 は U_1 の一般的な特性を述べる (68) —— にまとめられている。したがって, Quirk *et al.* では Anna, my best friend (1310) は称号であるが, 同じ構造の Helen Lambert, their daughter (115) は Meyer では characterization になる。

また特に, U_2 が一人しかいないような役職を表す場合ゼロ冠詞であったり, あるいは U_2 に不定冠詞が用いられる場合は限定とされるが, はたして称号とどう異なるのか。

- (1) One morning she received a call from *Philip Redding, president of a large oil corporation.* (Sheldon, *Rage of Angels* p. 272)

-
- (2) 'I'm V. I. *Warsawski*, a business friend of your mother's.' (Paretsky, *Burn Marks* p. 251)

あるいは、次例は限定、換言のどちらと考えられるのか。

- (3) *The front of the place, the part the little shops used as their sales floors, had been turned into a reception area.* (Paretsky, *Blood Shot* p. 128)

3. 本論の目的

同格構造は U_2 が U_1 についての何らかの情報を与え、 U_1 の'definer'になるということは、その中心的機能はあくまで叙述である。本論では意味分類にこだわらず、文脈の中での同格構造、伝達上の機能、文体的機能という観点から同格を再考して行く。

II. 本 論

1. 情報の流れ

基本的には U_2 は U_1 に関して全く、あるいは部分的に新しい情報を伝えなくてはならない。新情報とは話し手と聞き手、あるいは書き手と読み手が共有していない(と話し手や書き手が考えている)知識であり、文脈の中で決定される。共有知識が少ないほど同格構造は多く用いられ、 U_1 の解釈が U_2 に依存する程度が高いほど U_2 の必要性は増す。 U_2 の必要性は文脈により決定される。話し手(書き手)が U_2 の必要性を判断するのである。

- (4) The flashlight moved away and Gus Stavros sat up in bed. He looked at the two men standing on either side of him and knew he had been given good advice. **A giant and a midget.** Stavros could feel an asthma attack coming on.

'Go downstairs and take whatever you want,' he wheezed. 'I won't make a move.'

The giant, Joseph Colella said, 'Get up. Slow.'

Gus Stavros rose from his bed, cautious not to make any sudden movements.

The small man, Salvatore Fiore, shoved a piece of paper under his nose. (Sheldon, *Rege of Angels* p. 316)

(5) It was *the end of October, two weeks before the election*, and the sensational race was in full swing. (*Ibid.* p. 232)

(6) He heard Kitty's steps in the hallway. Quickly, Myles turned to the bookshelvas. *One section* caught his eyes, *a collection of well-worn books on anthropology*. (Clark, *While My Pretty One Sleeps* p. 186)

(4)では、Gus が目を覚ますと大男と小男がおり、二人を対照させて述べる部分。the giant と the small は既出情報で、 U_1 と U_2 の関係は名称である。(5)は章の昌頭部で、10月末だからではなくそれが投票二週間前からこそ選挙戦たけなわなのである。したがって U_2 は必要な情報である。 U_1 と U_2 は換言の関係で、現実世界の知識に基づく同一指示である。(6)では足音を聞き本棚に向き直るとあるコーナーに目を引かれた。見るとそれは人類学の蔵書だったという流れ。 U_1 と U_2 は同定の関係で、 U_2 は後置されている。いずれも U_2 が U_1 に関して新しい情報を提供したり、また前後の文脈の流れから考えると、例文のような談話の流れが自然である。

先に基本的には U_2 は U_1 に関しての新情報を伝えると述べたが、Meyer (1992 : 93) によると、 U_2 が全て新情報であったのが全体の86%、旧情報をも含んでいたのが14%である⁸⁾。その要因として以下に記す伝達上の機能と文体的機能とが考えられる。

2. 伝達上の機能

2.1 明確化

U₁ 指示するものを U₂ の与える情報で明確にし、テキスト理解の手助けをする。

- (7) Fiona had told Nolan about Doone's accusations. Nolan told Harry that now *he, Harry*, knew what it was like to have a charge of murder hanging over him he would in retrospect have more sympathy for *him, Nolan*. Harry didn't like it. With only vestiges of friendliness he protested that *he, Harry*, had not been found with a dead girl at his feet. (Francis, *Longshot* p. 166)
- (8) Christmas came and went, and it was *a new year, 1973*. (Sheldon, *Rage of Angels* p. 259)
- (9) 'I got to the meeting in plenty of time. *Ron* was waiting for me — *Ron Kappelman, our lawyer*' — she put in an aside to me — 'and we found we weren't on the agenda.' (Paretsky, *Blood Shot* p. 22)
- (10) 'Are you there, Ben Joe?'
- 'Yes'm. How is she?'
- 'Oh, fine. And the baby's a darling. Very well behaved.'
- 'Has *she* changed much? *Joanne, I mean*. What's she like now?'
- (Tyler, *If Morning Ever Comes* p. 19)

(7)では間接話法にすると *he, him* に相当する可能性があるのが Nolan, Doone, Harry と三人いるので、読み手の理解を助けるために U₁ を U₂ で同定し、はっきりさせている。(8)は章の昌頭部で、物語進行の状況説明になっている。U₁ と U₂ により年が明けて1937年になったことが読み手に知らされる。いわばテレビドラマのテロップのような役割を果たす。U₁ と U₂ は同定の関係である。(9)では「説明もさしはさんだ」とあるように、Ron が誰であるか聞き手に確認している。U₁ と U₂ は換言、U₂ と U₃ は

称号の関係である。(10)の Joanne は赤ん坊の母親。she が赤ん坊ではなく Joanne であることを明確にする。U₁ と U₂ の関係は同定で、U₂ は後置されている。また、同格であることを示すマーカー 'I mean' がある⁹⁾。同格を示すマーカーは特別指定の場合を除いて選択的で、Meyer によると、マーカーを用いない例が全体の97%で、しかも用いられた例のうち64%が学術的なジャンルのコーパスである。つまり、マーカーは formal style のしるしにもなりうることになる (1992: 96-98)。

2.2 叙述

I. 3. で述べたように同格の基本的な機能は叙述であるが、その中でも特に指示性より叙述に重点を置く場合がある。

- (1) *A man in a gray sweatsuit, a large envelope under his arm, a man with heavy dark glasses and a freakish punk-rock hairstyle, was rushing toward her through the stalled traffic, (Clark, While My Pretty One Sleeps p. 242)*
- (2) *Montgomery, a tall, thin man with hollow cheeks, gave me a sour look as I came in. He ignored my outstretched hand, pointed to the empty chair in the corner. (Paretsky, Burn Marks p. 78)*
- (3) *The preliminary hearing was before Judge Fred Stevens, a strict disciplinarian. It was rumored that he was in favor of shipping all criminals off to some inaccessible island where they would stay for the rest of their lives. (Sheldon, Rage of Angels p. 224)*

(1)は同一人物を異なる角度から描写している。U₁ と U₂ は現実世界の知識に基づく換言である。(2)は Montgomers の特徴を述べており、U₁ と U₂ は限定の関係。後続の文から考えて U₂ の情報の必要性は低い。一方、(3)は Stevens 判事の特徴を述べ、(2)と同じく U₁ と U₂ は限定の関係であるが、後続の「犯罪人は孤島に送ってそこで一生を過ごさせるべきだと主

張している」ことを引き出すには必要性の高い情報である。

2.3 言い換え

換言には主に次の四種が考えられる。①言語知識に基づくもの ②現実世界の知識に基づくもの ③より正確に言い直すもの ④訂正。このうち、①が ‘absolute synonymy’ — ‘would have identical meanings if and only if all their contextual relations were identical’ (Cruse 1986 : 268) — つまり、いかなる文脈に置かれても同義である。他は ‘speaker synonymy’ — ‘is often employed as an explanation, or clarification, of the meaning of another world.’ (*Idid* : 267) — つまり、辞書的な意味は異なるが、ある特定の文脈において同一物を指示する。特に④は U_1 と U_2 が同一指示であるとするのに話し手（書き手）の判断によるところが最も大きい。

(14) In the late afternoon, they took a *calandria*,¹⁰⁾ a horse-drawn carriage, to Pie de la Cuesta, the sunset beach, and then returned to town. (*Idid*. p. 378)

(15) It (= the situation) wasn't easy for him. A Californian klutz tripped over her long skirt getting off the bus and helped fan a national revolt against the New Look. But Dior stuck to *his guns*, **or** *his scissors*, and, season after season, introduced graceful, beautiful clothes. (Clark, *While My Pretty One Sleeps* p. 146)

(16) ‘I'm asking you — begging you — to understand and be better than him.’ (Paretsky, *Burn Marks* p. 336)

(17) ‘If it was secret, then it was none of your business, Warshawski,’ Velma interjected.

‘She (= Roz) made it my business. *She* — **or** anyway, *Marissa Duncan* — got me to my name to a public roster announcing my support.’ (*Ibid*. p. 273)

(18) ‘Hi, Elena,’ I said weakly. ‘I found a room for you. Over on Ken-

more.’

‘Oh, *Vicki, Victoria, I mean*, family’s family and I knew you wouldn’t let me down.’ (*Ibid.* p. 53)

(14)は言語知識に基づくもので、*calandria* が馬車の一種であることを説明している。(15)の *Dior* は新進デザイナーで、当時は戦時中のミリタリー・ルックがはやっていた。そこから U_1 の *gun* が出来来て、 U_2 でデザイナーにとっての *gun* を *scissors* と言い換えている。 U_1 と U_2 はこの文脈において初めて同一指示になる。(16)では *ask* 「頼む」を *beg* 「懇願する」と言い換えることによって、「お願い、一生のお願いよ」という話し手の心情をより正確に表現している。(17)の *she* は郡の行政委員候補者の *Roz, Marissa* は彼女の選挙運動の参謀。結局のところ、事実上は候補者 *Roz* 自身ではなく参謀の *Marissa* に支持者名簿にのせられたと訂正している。同格のマーカ― *or* があり、 U_1 を U_2 で言い換えたのは話し手の判断による。(18)の *Elena* は *Victoria* の叔母。いつも迷惑ばかりかけている。住む所を姪が見つけてくれたので感謝している場面。ふだんなら *Vicki* と愛称で呼ぶところを、きちんと *Victoria* と言い直している。同格のマーカ― *I mean* が用いられている。

3. 文体的機能

3.1 心理的要素

情報価値から見ると必要性のそう高くない U_2 を話し手（書き手）の心理を表すために用いることがある。

(19) ‘Don’t worry,’ *Ronnie* had said heartily, summoning me to his presence after reading the manuscript I’d dumped unheralded on his desk a couple of weeks earlier. ‘Don’t worry, I’m sure we can find you a publisher. Leave it to me. Let me see what I can do.’

Ronnie Curzon, author’s agent, with his salesman’s subtle tongue,

had indeed found me a publisher, a house more prestigious than I would have aimed for. (Francis, *Longshot* p. 3)

(20) 'You're sending my manuscript to America,' I said, zipping up my jacket and bursting to tell *someone, anyone*, the good news. (*Ibid.* p. 13)

(21) 'That would make Adam a bigamist. I'll never give him a divorce. If I had let Adam divorce me and marry you, he would lose the election. As it is, he's going to win it. Then *we'll* go on to the White House, *Adam and I*. There's no room in his life for anyone like you.' (Sheldon, *Rage of Angels* p. 242)

(19)の書き手は駆け出しの作家。口の巧い業界の人を信用していなかったが、驚くべきことにあの作家の代理人をやっている Ronnie がすばらしい仕事を見つけてくれたということを強調している。U₁とU₂は称号の関係。Ronnie の身分は既知の情報である。(20)も同様の状況で, someone 「誰か」をU₂で anyone 「誰にでも」に換言することによって, この嬉しい気持ちを誰かれなしに伝えたいことを表現している。(21)は同定表現で, U₂は後置されている。「あなたと Adam ではなく私と Adam がホワイトハウスへ行く」ことを強調。わざわざU₂を言わなくても, 聞き手には we が誰のことかわかっている。U₂が後置されていることで, より一層強い表現になっている。

3.2 修辭的要素

修辭上の効果を狙って同格構造を用いることがある。U₁とU₂が入れ替っても意味的に違いはないが, 文体上の効果が異なる場合もある。

(22) Di Silva walked along the jury box, looking each juror in the eye. 'I told you that this case won't take up much of your time. I'll tell you why I said that. *The defendant sitting over there— Abraham*

Wilson — murdered a man in cold blood. (Ibid. p. 96)

- (23) When Jennifer had finished, Adam said, '*The man who gave you the envelope — was he* in the District Attorney's office earlier that morning when you were sworn in?' (Ibid. p. 60)

(22)は法廷の場面。陪審員に訴えようとして検事は劇的な、しかも法廷独特の言い回しをしている。U₁とU₂は名称関係で、U₂は陪審員には既知の情報である。(23)は同定関係にあるU₂がU₁の左方転位した別。「封筒を渡した男のことだけ」と、先にトピックを示す形になっており、同時に聞き手に対して発話の理解を容易にしている。

3.3 簡潔性

同格構造の代わりに関係詞節を用いたり、独立した別の文を作るなどの方法で同じ内容を表すことができる。しかし、同格構造には他にない簡潔性、リズム感、ダイナミックさがある。

- (24) *The quarry, Michael Moretti, sat at the defendant's table, a silent, handsome man in his early thirties.* (Ibid. p. 15)

- (25) Judge Waldman said, 'Will the defendant rise please?'

Abraham Wilson sat there a moment, his face defiant; then he slowly rose to his full height of six feet four inches.

Di Silva said, 'There is a court clerk here, Mr. Galin, who is five feet nine inches tall, the exact height of the murdered man, Raymond Thorpe. Mr. Galin, would you please go over and stand next to the defendant?' (Ibid. p. 100)

(24)は物語の冒頭部で、被告人である「獲物」がMorettiであることをU₁とU₂の名称関係で、彼の特徴を後置された限定関係のU₃で簡潔に説明している。(25)も法廷の場面。大男のAbrahamが小男のThorpeを殺し

たが、彼の弁護士は正当防衛だと主張。それに対して判事が異議を唱える。U₁とU₂は名称関係。U₂の特徴を続けて関係詞節で述べ、その節中のU₃とU₄は換言、U₄の中の the murdered man とU₅は名称関係になる。これだけの情報を短い文の中で簡潔に、しかもリズムカルに盛り込んでいる。

Ⅲ. 結 語

同格構造は、基本的にはU₂がU₁を defining する 'definer' で、U₂がU₁について叙述する。U₂は全て新情報である場合が多いが、そうでないこともある。その場合には明確化、情報の確認、説明、言い換えなどの伝達上の機能を果たす。すなわち、話し手（書き手）がU₁で伝えられる情報をよりはっきりさせたり、聞き手（読み手）の知識を確認したりして発話の理解を助けるのである。さらに話し手（書き手）の心理状態の描出、修辭的効果、簡潔性やリズム感などの文体的機能を果たすこともある。

U₂の必要性は話し手（書き手）と聞き手（読み手）の共有知識がどの程度あるか、すなわち文脈により決まる。共有知識が少なくU₁の解釈がU₂に依存する度合いが高いほどU₂は義務的になる。したがって、同格構造を用いるか否かは話し手（書き手）の判断による。話し手（書き手）が聞き手（読み手）のテキストの理解度に疑問を感じたときに同格構造を用いる。そうすることによって、テキストの理解を助けることになる。

注

- 1) Meyer (1991), p. 168. 同格構造全体の88%が名詞句間の関係である。
- 2) Sopher (1971), pp. 407-408.
- 3) 以下、特に断わりのない限りイタリック体部分は筆者による。
- 4) Quirk *et al.* (1985). p. 1304.
- 5) 限定的 (attributive) の例として、Secretary of Labor Arthur Goldberg (p. 76) をあげている。
- 6) 後方照応的の例として、*This is what Rivens wanted : to introduce course one into Refford.* (p. 64) をあげている。

- 7) 基本的な lexical relation のことを適合関係と言い, identity (同一), inclusion (包含), overlap (重複), disjunction (分離) の四種がある (pp. 86-87).
- 8) 資料は Brown Corpus (アメリカ英語, 60例, 12万語), London-Lund Corpus (イギリス英語の話し言葉, 24例, 12万語), Survey of English Usage Corpus (イギリス英語の書き言葉, 24例, 12万語)。
- 9) 同格を示すマーカーには, that is (to say), namely, in other words, or (rather), including, I mean などがある。
- 10) 原文でもイタリック体。

参考文献

- Cruse, D. A. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge : CUP.
- Meyer, C. F. 1987. "Apposition in English," *Journal of English Linguistics* 20, 101-121.
1991. "A corpus-based study of apposition in English," in Aijmer, K. and Altenberg, B. (eds.). *English Corpus Linguistics — Studies in Honour of Jan Svartvik*. London : Longman, 166-181.
1992. *Apposition in contemporary English*. Cambridge : CUP.
- Quirk, R. et al. 1985. *A comprehensive grammar of the English language*. London : Longman.
- Sopher, H. 1971. "Apposition," *English Studies* 52, 401-412

引用作品

- Clark, M. H. 1989. *While My Pretty One Sleeps*. London : Arrow Books.
- Francis, D. 1990. *Longshot*. New York : Fawcett Crest.
- Paretsky, S. 1987. *Bitter Medicine*. New York : Ballantine Books.
1988. *Blood Shot*. New York : A Dell Book.
1990. *Burn Marks*. New York : A Dell Book.
- Sheldon, S. 1980. *Rage of Angels*. Glasgow : Fontana.
- Tyler, A. 1986⁵. *If Morning Ever Comes*. New York : Berkley Books.